

清流通信「四万十川物語」

第31章 (H11.10.10)

送信者：高知県四万十川対策室

tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 E-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

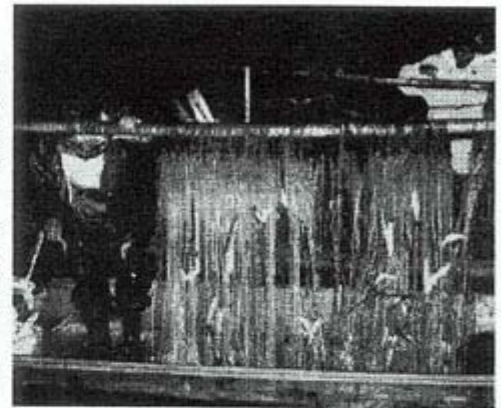
昔ながらの伝統漁法「火振漁」

四万十川流域には、代々受け継がれてきた独特の伝統漁法が数多く残っています。「ころばし漁」、「柴づけ漁」、「投網漁」…etc。なかでも暗闇の川面に明かりを灯し、鮎をあらがじめ仕掛けの網に追い込む「火振漁（ひぶりりょう）」は、四万十川の情緒を感じさせる漁法です。西土佐村口屋内地区で火振漁を行うということで、船に同乗させてもらいました。

まだ比較的辺りが明るいころ河川敷に向かうと、すでに七艘の船が付けられ、漁師さん達は網を仕掛けるポイントの抽選を行っていました。ポイントによって大きく漁獲量が左右するので、いかによい数字を引き当てるかにかかっています。

すっかり闇に包まれたころ、それぞれのポイントに出向き、台図によってみんな同時に網を仕掛けます。網はゆっくり弧を描くように水中に落とされていきます。

それぞれ網を仕掛け終わると、全ての船は仕掛けより川下に集結し、いよいよ追い込みの始まりです。電灯を高い位置に取り付け川面を照らし、ほぼ一列に船を並べゆっくり進めます。船頭にいる人は竹の棒で水面を叩き鮎を驚かせ、船尾にいる人は鮎取りを行います。二人の「あうん」の呼吸を合わせながら、他の船と協力して鮎を追い込む様子は、火振漁ならではの光景です。



※網にかかった鮎

仕掛けてからほんの数十分しか経っていないのに、網を引き上げると鮎が続々と姿を現します。多いときには一日に30kg獲れることもあるようですが、今年は夏場に大雨が続き、鮎の餌となる川コケが石に付着せず、例年に比べ漁獲量は少ないとのことでした。

それでも同乗させていただいた上戸さんご夫婦（民宿“せんば”を経営）の船では、3箇所に仕掛けて約60匹の漁獲がありました。この火振漁は禁漁期間になる前日の10月14日まで行われます。

四万十川ならではのこの素晴らしい伝統漁法が、後世にも未永く継承されていくことを願いながら帰路につきました。

第15回 水環境保全市町村連絡協議会全国大会・
水環境保全シンポジウム開催
「四万十川の生き物たち ～川と生態系を考える～」
日時 平成11年11月10日(水)
場所 中村市立文化センター
内容 記念講演 川那部浩哉京大名誉教授 他
問合せ先 中村市四万十川対策課 0880-34-1111

新エネルギーシンポジウム(正式名未定)開催

「環境に、人に優しい21世紀の暮らし方」
日時 平成11年11月11日(木)、12日(金)
場所 梶原町開発センター
内容 記念講演、連絡協議会の設立 他
問合せ先 梶原町企画調整課 0889-65-1111

次章(11月10日発行)は、「子どもはなぜ川で遊ばないか」を予定。